明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可 (日刊) 月曜及大祭日の翌日休刊 明治四十四年二月七日（火曜日） 第六百二十號 （一）

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金 錢▲一ヶ月前金 ▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久峰郎
京城西署西小門通（電話六八六二）
發行所 京城新報社

雜報

藤田院長の講演（二）

▲ペスト豫防心得▼

第一期 接觸交通ある地方に流行する場合で此場合では如何いふ事が必要であるかと云ふことを御話ししませう御存ペストが目下鴨綠江を隔てた滿洲奉天の先きまで來て居りますから當朝鮮は丁度此の第一期に屬して居るので此の場合に於て勵行すべきは一

土地清潔法 で之れは申迄もないことで總て土地が不潔であつたならば病毒と云ふものは其黴菌は附着し流行傳播する憂ひが多いものでありますから第一に始終清潔にして置かねばなりませぬ則ち土地內の床下などの清潔法は勿論糸掃き道路も坦々砥の如くして下水溝渠等も停滯せず自然に流暢し易く時は日光直射によりて黴菌は死滅して仕舞ますが之れ皆民衆に塵埃の增えず土地清潔をなして居りますとペスト黴菌は肉眼にては到底視ることの出來ぬ微細なものでありますから塵埃の中に在り、夏の日金を消かす樣な暑さ折に吾々が大森林に這入涼しくして居ると同樣で宜い心持ちで發育しまして日光消毒など何の感じもありませぬ其次になすべきは二、

家屋の補修 之れには何も大仕掛けにやるには及びませぬ壁の破れとか椽の下等の隙間などを塞いで鼠の出這入りの出來ぬ樣にするのであります尤も官の倉庫、會社など金を掛け得る建物には是非漆喰にして蓋を明くれば何時でも見通しの付く樣にして時々御洗いして仕舞ふ之れは大分金が掛りますが一体日本の倉庫と云ふものは不完全であつて床板を張つてありますがあれは殆んど鼠の住家を造つや樣なもので其椽下は始終暗黑で濕氣を帶びたるものですから病毒蕃殖するに最も屈強の場所となります鼠の隱れて居るのは重に此の樣な處でこれより病毒を傳播するのであります尚其上出來る丈け邸の內外の廊障溝渠など修繕をして鼠の往來の出來ぬ樣にせなければなりませぬ次は三、

家具の整理 です家の道具の置き方に氣を附けることです例へば壁の側に簞笥を置くにもペスト流行の時分には壁と簞笥の間が隙くやうにして此間をば々掃除の出來る樣にし死鼠の有無を日々氣を付けなければなりませぬそうしませぬと自然埃が溜り從樣や其他の物が落ちて其處になりやすい亦鼠も斯樣な處があれば座敷杯に出て來ても一寸隱れるのに便利でありますから此處を本據として座敷を荒すと云ふことになります殊に小兒のある家に於ては注意すべきことで御座いますペストの出來た家に這入つて檢査して見ますと斯樣な處や押入の隅杯に斃れた鼠が轉げて居る

●平壤鐵道新工事 平壤に新築せらるべき鐵道工場は經費五十餘萬圓を要し龍山工場に設計を爲し鐵骨組立中に係り敷地一千餘坪は大同江右岸にトされ近く建築する方針にて既に準備も完備し居れば三月中旬解氷と共に工事に着手落成後兼二浦工場を閉鎖すと

外事一束

▲英帝誹謗事件經過 巴里發行の英字新聞リベエレーターが英帝陛下の御私行を摘發したる誹謗事件は一般の好奇心を動かし居れるが豫審も漸く終結去る一日公判を開始せり其際公用辯護士は英帝と某海軍提督令孃との結婚事實は全然存在せずとし之を證せん爲めマルタ島に於ける結婚登記所の記錄中皇帝が地中海艦隊御勤務時代のもの全部を面に蔽め提供し高等法院長は一應被告をして右書類を檢せしめたり

▲獨政府と築城問題 フリッシンゲン築城問題は國際的平和を撹亂するの虞あるを以て之を國際會議又は協商に付せんとの提議に對し斷然拒絶するに決したりと

▲自然增收課税と獨議會 親王及内親王家に關する自然增收課税問題は獨逸帝國議會の議に上り百三十八に對す百六十六を以て其義務なきものとし此修正案を通過せり

▲運河博覧會の位置 千九百十五年開催のパナマ運河開鑿紀念大博覽會はニユーオレアンスと桑港との間に激烈なる競爭を演じたるが遂に下院に於て遂に桑港に開くべく決しニューオレンアンは敗北せり

雜錄

●結婚 みや生投

人間はなぜ獨身では居られぬ、結婚すべき時期が來れば妻を持つ、それには動物學上の理由があるので何の動物でも身体は二ツの力から成立つて居るものである、即ち生活力、と生殖力で一方に向つては生活して行くと同時に一方に向つては子孫を繁殖するのが動物の二大事業である、人類も其の通り、我等の身体は親から受けたもので、されば如何なる身体を受けたかと云へば此世に生活すべき身体と子孫を繁殖すべき身体と、この二ツの力を受けたものである、夕世間に獨身生活を守ると云ふ人がある、其等は天然の能力を廢するので人類の事業を成し遂げぬのである、況んや人類 下等動物の樣に子孫を殖した計りでは濟むものにあらず、即ち其れを養育して立派な人類を世界に供給すべき天職がある、

斯う云ふ譯で我等は必らず結婚爲る然らば如何なる人を貰ふか、といふ人もあれど其れは分らぬ、刻下に迫つた問題でなし誰れを貰ふといふ心當りはない、で、女一人りは天から許されて居る事故何れ分相應の配偶者を目附けて貰う事に爲る!!

山中鹿之助 七十三回 西尾麟慶演

偖て二人は臥床に入りましたが、此の家のありさま何んとなく怪しく、隣りの室にあたつてヒク／＼泣て居りまするは女連れの旅人らしく、棚木にも草にも心を置きますことなるが故に心配をいたしまして、密かに容子を伺ひ見まするに、何んゾ許らん是れなん有名の人買の宿でありまして、旅行と僞り此處へ旅客を泊めて、男は密かに忍んで殺害し、死骸は谷間へ投げ込み女は長崎さしては八丈佐渡三宅なりの遁ひ島田の遊女に賣らはたす云ふやうな始末、夫れと悟つて棚は丸重姫、傍へ參りまして 棚「お姫さま、とんだ家へ泊りました、如何なればこそ吾々主従は薄運で御座ひませうか 九「何んであるゾ棚」棚「外では御座ひませんが、只今此の家の容子を伺ひますれば、此の家は人買の住居で御座ひます、で、爰にとんだ事をいたしました、若し妾どもが此の姿でなければ、直ぐに皆者が居りまする座敷へ入れられて、憂目を見るので御座ひませう、次の室なぞにはモウ二三日經つ内に夫れ／＼送るべき處へ送りつかはすなぞ、云ふ事を申して居りまする、實に大變な事に成りゆきました、此處は山賊、往來ので御座ひまする、御姫樣御油斷遊ばしますナ、權へ遊ばせ、と云はれて九重姫は胸をいろき 九「棚如何いたしたら宜らふぞ」と話し／内に、遁はそも如何 恐しき物音が奥座敷の方に當つ聞へまし、何事ならんと思つて居る處へ、太刀引の音すざまじく、吉凶いづれかは知れざれど、九重姫も棚も尋ねて受ける身の上ゆゑ甚く心配い、まして、如何はせんと躊躇ふへま／＼恐しき物音は彼方此方にひたし男女泣き叫ぶ聲すさまじく、此の時耳をすまし一聞くと、大聲あげて呼はる聲は四邊に響きわたつた、其の聲に、ヤア／＼當家へ不幸にして連れ來られたる處の男女の者ども、一同に心配いたすナ、某事は尼子義久が家臣にして、山中鹿之助十傑の一人大谷古猪之助なり、當家の主人が常に逆道の行ひを爲し、良民に難儀をかけ、良家の婦女子を誘拐して何れへか賣却なすといふ事を密かに承はつて、今宵計らず計略をもとめて泊り合せ、天に成りかわつて誅戮をする者は大谷古猪之助なり、覺悟をしろ」と近寄る者を拳をもッて打殺し、掴んでは投げ或は蹴倒し其の勢ひ猛虎の暴れたる如く、之を最前より見て居りました九重姫は異ぶこと限りなく、キッと見れば、紛ひ無き信州山間の相木森之助御夫婦が隱遁なさるゝこそは承はり、夫れを訪れ申上げんと云ふので、城内の大變あり、前に脱發をば出立いたしましたる古猪之助で御座ひますから、宛然一度び死せしものが蘇生し心地いたしまして、九重姫は言葉はなく大谷古猪之助を氣づかふて柵、諸共に其の働きを見て居ります處へ、此の家の主人賊の張本丹波太郎が槍を持て踊り出だし 丹「ヤア汝不埒なる奴、如何なれば斯くの如く亂暴狼藉我が渡世の邪魔だてするゾ、イザ息の根止めてくれん」と突ツかゝる、之を見てナ猪之助カラ／＼と打笑ひ 大「何を小癪な」と二三合切り結んだが、古猪之助が勢ひするどく切り込む一刀に脆くも槍を敲き落して、エイト一聲、ハッと立たる血烟あろとも、遂に丹波太郎は此の場に堂と打ち倒れました、手下小賊ども一同はコワ敵はじと逃げ出す奴を、古猪之助が逃しはせじと右と左りに切りまくりました、一方道で殊に難所で御座ひますから、逃げそくなつた小賊どもを殘らず切て落しました、古猪之助血ぶるひをいたして突ツたつたる有さまは勇々しくぞ見へたるなり、寄ぶ中にも他の者は又恐しく、近づくものは一人も御座ひません、此時聲をかけたる棚は 棚「アーイヤ古猪之助殿にてあれわさずや、棚にて候ふゾ」と云ふ言葉に吃驚 大「ナニ棚と曰ますか和女はハテナ成程言葉は棚殿かは存せねども、容貌の變りしはぞ」、氣遣ふに嬉しさのあまり、九重姫は其の處へ馳せ出でたまひ 九「妾なるゾ」と大谷言葉に驚ろ古猪之助 古「鬼も角も」と奥まりたる一室へ通しました。

廣告

東京電報

宮中の紀念祭
本日宮中に於て午前九時より皇靈殿の祭典を奉仕し式部官一同着席奏樂中開扉神饌を供し岩倉掌典長祝詞を奏し紀念祭を行はせられたり（五日）

渡英艦隊の拔錨
英皇戴冠式に參列の爲め渡英すべき軍艦は來る四月一日橫須賀を拔錨する筈なり

日英同盟紀念會
東京に於ける日英同盟紀念會は伏見宮閑院宮兩殿下には御參列遊ばされ[illegible]英國大使の歸國に付き來る十二日英國大使館に於て紀念會を開く筈なり

英國大使の歸國
東京駐在英國大使マグドナルド氏は本月五日歸國の筈なり

追加豫算の提出
本日の衆議院に於ては英國皇帝戴冠式に派遣の艦隊費六十萬圓と關東都督府の追加豫算百萬圓（在淸國居留地[illegible]を含む）の追加豫算を提出したり

良人取締規則
日本基督敎婦人矯風會は根本氏の紹介にて良人取締に關する刑法及民法中改正並に在外賣淫婦取締法制定に關する請願を衆議院に提出したり

學制案の發表期
改正學制案は[illegible]特別委員會に於て[illegible]昨日の委員會に於ては小松原文相は出席して先づ一番を見たり次會[illegible]

伊集院公使の參內
伊集院特命全權公使は任所淸國より歸朝し本日午前參內天皇陛下に拜謁仰付られたり（五日）

工場法と鑛業案
工場法案及び鑛業統一案は委員附託となれり（五日）

東洋視察團
北米市俄古商業會議所主催の東洋視察團は同會議所會頭を團長として三月十七日米國を出發し四月十日橫濱に來着すべし一行は[illegible]百餘名にて[illegible]我國の渡米實業團に對し報謝の意を以て[illegible]來朝せるものにして其の行程は橫濱に着港同月十六日同地出發長崎を經てマニラ香港を視察し五月十日再び長崎に戻り十三日神戸に着十六日同地發橫濱を經て六月二十日渡米の途に就くべし

雜報

紀元節祝賀順序
來る十一日總督邸に於ける紀元節祝賀順序を聞くに左の如し

一十一日午前十時三十分 李王殿下並に王族

一同日午前十一時 總督府所屬官署勅任官及同待遇 總督府並に所屬官署奏任官總代一名宛 同上[illegible]及同奏任官判任官總代各一名宛

總督邸の晩餐會
十一日午後六時より山縣政務總監は總督に代り總督邸に於て日韓文武官四十四名を招待し盛なる晩餐會を開催す

領事團招待
山縣政務總監は來る十三日午後七時より在京領事團、英米其他の各國總領事同夫人を總督官邸に招待し晩餐會を開く筈なるが當日は[illegible]其の他文武高等官同夫人數十名を陪賓として招待すべしと

尙齒恩金下賜
龍山憲兵分隊管內果川郡に於ける第二回尙齒の恩典に浴したる人々は金明根（九二）[illegible]七十圓洪郡周（七三）[illegible]十五圓與百秀（七三）三十五圓等の六名にして[illegible]感泣し居れり

民有土地申告
臨時土地調查局告示第一號を以て左の區域內に土地を所有するものは左記期間內に其土地を申告すべき旨告示されたり

▲區域 京畿道水原郡、慶尙北道高靈郡

▲申告期間 二月二日より明治四十四年七月三十一日迄

今年一月に入りて左[illegible]り

[illegible]部木洞面南部面鑛業[illegible]號朴光欽△忠淸南道[illegible]鑛業許可第四三七號尾崎榮三郞、吉井喜[illegible]△平安北道泰川郡北面[illegible]二四號、白宗東外四名

追加豫算の公布
本年二月より三月に至る朝鮮總督府の追加豫算三百六十六萬餘圓は先日來議會に於て審議中のところ愈々通過したるを以て去る四日公布されたり

事業公債の內容
朝鮮總督府が來年度に於て事業公債を募集するの計劃を立て同豫算に編入せることは兒玉政府委員の答辯に依り明かなるが其の金額は千二百三十二萬四千百九十九圓にして港灣、治道及鐵道建設並に改良費に充當すべきものにて此內譯は治道費二百萬圓、鐵道建設及改良費八百五千萬圓、其他は海關工事費にて公債の募集先は大藏省の預金部又は韓國銀行なるべしと云ふ

恩賜公債處理出願
恩賜公債本證券は去月十三日以來總督府及び各道長官を經てそれぞれ交附濟となりしも元官吏にして住所の明白ならざるもの少からず是は目下警察及び郡衙の手によりて調査中なるが併し現角の問題として京畿道にありては昨今本人より同公債の處理則ち賣却を京城府に出願する向き頗る多く既に百名に上れりと其理由とするところは舊債の整理、家政改善、土地の買收、新事業計劃、田舍移住等にして一萬圓以下の所持者は何れも處理の意向を有するもの如くなるが府廳に於ては一應審査の上是れを京畿道廳に廻送夫しより處理の理由に就ては憲兵、警察の兩方面より取調べしめ如何にも餘儀なき事情あるものは更に總督府に廻附せざるべからざるが是れに就て何にか奇特の趣向に出ざるべからずとし例年の常習たる賭博を全然廢止し斯て各家金若干づゝを醵出し餘興の意味に於て手踊りを催し歡を極めたるが右餘興費のみに金六十餘圓を投じたりと云ふ賭博を廢し手踊りを催せるなど實に遷善の良左と云ふべし

船鑑札の假下附
朝鮮の沿岸を航行せる內地の船舶は從來領事館の手に於て船鑑札を下附し來りしが併合後は之れを取扱ふべき官衙も廢止されたるに依り一時其手續を中止し居りしが船舶所有者の不便と取締上の必要よりして內地の當該官衙に本鑑札を受くる時期まで朝鮮に於ける各稅關は假鑑札を交附することとなりたり

船舶規則草案
朝鮮の船舶規則並に同檢查規則は併合以前のものを翻令の効力にて其儘襲踏したるものなれば頗る不便の點多く殊に統監府及韓國政府の兩樣ありて統一を缺くこと甚しきに依り過日總督府に於ける稅關長會議の開催されたる際にも議題となりしものなるか大体の成案は既に成れりと雖も未だ確定するに至らず或は內地の船舶法を其儘朝鮮に施行せんとの議ありと雖も斯くては他の法律に關係を及ぼす事の多ければ目下講究中なりと云ふ

特種銀行金利引下
韓銀、農工銀行及其他の地方金融組合等政府の特別保護を受くる金融機關にありては每營業年度の始めに於て其年に施行すべき金利を豫定し政府の認可を受くべき筈なるが右に付今季の豫定利率如何を聞くに大体に於ては目下の金融上より前季と異動を生ずべき特種の原因無しと雖も金利の引下は產業の發達上至多の關係を有することなれば韓銀にては其本來の立場よりして同業者に對する金利に多少の手加減を加ふべく其他に在りては何れも多少金利を利下ぐるの計劃ありと云ふ

手形組合理事交迭
漢城手形組合理事豐田明敬氏は今般光州農工銀行支配人に轉任し其後任は同所支配人佐藤龜久治氏赴任し來るを以て財務當局者及金融機關の重なる者は五日夜花月樓にて豐田氏の爲めに送別會を開きたり

韓銀分析所成績
太田出納局長談

本分析所地金買入の模樣は自分就任日淺きを以て帳簿に因り答ふるの外なく今京城に於ける昨年中の買入高如何を見れば左の如し

月	貫・匁
一月	二九、五五五、五七
二月	二三、一四六、七〇
三月	四二、五五二、[illegible]
四月	四一、一八六、二五
五月	四〇、一六二、五〇
六月	四一、〇四二、五〇
七月	四一、八一四、九〇
八月	四〇、三九四、二八
十月	一六、五四七、七五
十一月	一五、九九九、六〇
十二月	一六、二六一、九五
計	三七四、四八九、六〇

如上の月別成績を閱みすれば冬期は著しく減退し三月以降九月迄を以て其最盛時期たるを知るべし然らば

▲本年は如何 かといふに一月中の成績は未だ之を統計せざるも目下結氷期に際するを以て其出廻り殊に微々たるは言ふまでもなし而して一方他に

二ケ所の同業者現出 せる爲め其影響を受けつゝあるも亦事實ならん蓋し京城に集まり來る地金は既往一年間の成績によれば十五貫乃至十二貫なるに之を三個處に分買する次第なれば

韓國銀行の買入 高に對し勢ひ**減退**を來すべきは數の免れざる處なれば然れども之が爲めに

▲政府との契約 履行を難むするが如きは萬々是れなかるべきを信ず何となれば客年中の成績によれば其買入輸出總高は二千百十七貫餘なるも此內京城は三百七十四貫餘に過ぎずして差引千七百五十三貫は平壤元山の二分析所及仁川群山木浦馬山城津の各支店出張所の取扱に係かれば則ち其大部分は地方に屬するを以て京城に於て全部之を失ふも何等痛痒を感ぜざるを見るべし而して政府との契約は純金の納入額**三百六十萬圓**にして之を目方に換算すれば**七百二十貫目**なり是れ**責任納入量**なるが客年の如きは半ケ年にして既に之を充たし一年を通じて計算すれば殆んど倍額以上に達したり故に將來京城に於て他の同業者の爲めに全部之を失ふの打撃ありとするも毫も憂とせざる所以なり若し夫れ這般分析所の增設せらるゝは

▲大に之を歡迎 すべき次第にして豈に世間の揣摩する如き其現出を妨げ韓國銀行のみ其利益を壟斷せんと欲するものならんや元來朝鮮は到る處砂金を產出し其產額は輸出入貿易の不均衡を調節するに於て多大の關係あるは何人も知る處なり故に國家的眼光より之を觀るも續々各地に分析所の設立せらるゝありて之が吸收に努め朝鮮人の生產思想を發達せしむるは大に喜ぶべき現象たらずんばならず然れども營業と是れ利益を目的とする營業たる以上收支相償ふ程度に於て經營せざるべからず此見地より打算して果して

▲個人的經營 の存立可能なるや否や大に疑なきを得ず現に其利益とすべきものは僅かに一匁五錢に過ぎずして此內より一切の營業費を始め搬送に伴ふ諸費用を扣除すれば其殘高は可知るべきなり但だ其性質の比較的確實にして資金の運轉殊に迅速なるを唯一の利益とするも現に京城に在ては其集中力自ら限りありて如何に多量の取扱を要望するも一ケ月三十貫を超ゆる能はざるべし然れば無謀の計劃を敢へてせば結局共倒の悲境を見るに到らんか而して韓國銀行現在の

▲地金買集機關 は平壤を最高位とし元山之に次ぐ平壤は朔州方面より產出のもの頗る多量なる爲め非常の良成績を示めし居れり又三分析所以外にて仁川群山木浦馬山城津にても之を買入れつゝあるが分析器械の設備なきを以て見込契約を爲し造幣局へ納入の上實存斤量の通知を得て決濟し居れり而して其額亦尠からざるを見る更に

▲現機關と將來 如何を見るに現在にては京城平壤元山の三分析所以外に於て如上各支店出張所に在つても之を買入れ居れるが元來砂金は地方商民之を携へ來りて所近の都市に出で必要物資と交換し去るものなれば各地に之を設備するも何等効果なかるべし則ち邊陬の地に分析所を設くるも彼等の爲めに左程の利益を與ゆべからざるは朝鮮人の經濟狀態を知悉するもの〻首肯する處なるべしと云々

貨幣發行高週報
一月廿九日より二月四日に至る貨幣發行高左の如し

銀行券總發行平均高 一九、二〇五、三五七

內 正貨準備發行平均高 六、七[illegible]

保證準備發行平均高 三、[illegible]

硬貨發行高（二月四日現在） 八、〇九七、四二五

內

種別	額面	發行高
金貨	二十圓	一、八五〇、〇〇〇
同	十圓	五〇、〇〇〇
同	五圓	五〇、〇〇〇
銀貨	五十錢	一、三三〇、〇〇〇
同	二十錢	一、六九九、〇〇〇
同	十錢	一、八七〇、〇〇五
白銅貨	五錢	[illegible]
靑銅貨	一錢	[illegible]
同	五厘	八五、三六五

本邦の漁業發達
近時本邦に於ける水產業の發展は著しきものあり現にトロール船の發達は一時舊漁業者と衝突の氣味ありしも昨今にては互に漁區を一定し相侵さゞる範圍に於いて漁場を開發するもの〻如く而してその方面は主として紀州沖、朝鮮沿岸、日本海區域に限られある有樣なり但し鰹鮪漁の如き比較的沖漁に屬するものは多少の影響を受くるものあるより此等の漁業者は從來の漁船の裝置を改良して石油發動機を使用するの新例を開きつゝあり近時は更に吸入式發動機を使用するの更に有利なるを認め此等漁船に採用せるもの多くために大阪市の發動機會社は從來多く陸上使用の機關を製造せしも今日にては船舶用のもの最も注文多き由而して朝鮮及び日本海に於て漁獲物の販路は主として重なる都會にあることとなるが大阪市の如きも有力なる需用地にて臨港地より冷藏貨車によりて輸送さるゝ有樣にて從來餘り市場に見受けざりし魚類の店頭に販賣さるゝもの〻如きは主として「トロール」船によりて供給さるゝものにて鯛の如き其數を增し來りしも其發達の餘響に過ぎずといふ

遠洋漁業團
長崎縣長崎遠洋漁業團理事永野廣氏は五日同地出發して渡鮮し七日京城に入るべき由なるが同氏今次の用向は國有未墾地の調査及び鎭海灣に於ける漁村經營並に南鮮沿海地方に於ける屯田士の調査をなす筈此の屯田士は從來團有地なりしが其一部は既に東洋拓殖會社に於て拂下げ計畫あるを機とし同遠洋漁業團に於て東拓會社にてはこれに移民を移殖す[illegible]借地して漁民の副業に農事經營をなさしむる目的なりと尙同氏は序を以て統[illegible]に於ける移住民の育成獎勵、入佐村模範移住民の實況等視察釜山牧ノ島模範地經營調査等をなすべしと行程約二週間

藤田院長の消息
ペスト豫防の爲め出張せる藤田院長より五日夜當本部に達したる電報によれば左の如し

檢疫事務所避病院收容等詳密に視察せしに目下當地の藥店にては遺憾なき點まで注意し居れり收容人員は三名一々慰問せしに一人の不平を云ふものなく皆係官の好意と謝し居れり明日は鐵道部使役職方面視察の豫定なり

慈惠院の仁川出張
水原慈惠院にては昨六日より九日迄仁川栢峴出張所を設け鮮人に限り無料にて診察及び施藥をなす由

仁川防疫彙報
仁川警察署にてはペスト豫防の一として花房町各國墓地下空地秋田商會所有に係る滿州產鹽石炭置場周圍をトタン板にて取圍み外部より鼠の入らざる樣注意せり

京城民會招集期
新民團議員の資格は六日を以て確定したるに依り七日民長より其の通知を發し同時に民會召集の通知を發する筈にて改選後の新民會に來る十日午後一時より民團役所樓上に於て開き議長の選擧を行ふことに決定せり

民長と新舊議員
來る十日改選後の第一回民會閉會後古城民長は新舊議員を花月樓に招待して盛宴を張ると云ふ

咸南の人氣一變
咸南定平郡を中心として彼地方一帶は從來排日思想の盛なる所なりしが今や人氣一變して內地人教師の居らざる學校の生徒にても日本帝國の忠良なる臣民となるべき教育を受くることを目的とすと主張し又同地方の人民は一般に我々の盡すべき義務は納稅にありと唱へ居ると云ふ

木浦新民會議員
木浦港に於ける民會議員當選者は左の十二氏なるが有權者總數二百八十二名內投票總數二百十八名なりしと云ふ

百二 福田有造 百一 淸水近造

九九 村上直助 九七 高田平次郞

九六 谷村道助 八五 松井邑次郞

八四 麻生作男 八三 山野瀧三

七四 藤森利兵衛 六八 大內勘三

六二 石森敬治 六〇 大河原源吉

▲次點者 六〇點 辻川國十郞、五六 木村健夫、二七 池田重吉

元山新民會議員
元山民團議員選擧の結果左の諸氏當選したり（總投票二百四十二票）

一七六 西田常三郞、一四四 本田卯之吉、一二四 石和房吉、一一二 古賀庄太郞、九七 藤井末次郞、九六 龜谷愛介、九六 小西陸太郞、八一 新居源代太、七九 柴田良之助、六九 大塚榮四郞、六二 木本芳輔、六二 小田村讓助、五六 中村國太郞、五三 夏目十郞兵衛、五〇 龜井兵衛、四五 佐藤直太郞

鎭南浦面長會議
過日發布されたる面長協議會規則に據り六日鎭南浦府尹は十三日午前十時より管內各面長を召集し同府廳樓上に於て協議會を開く旨公示したり協議事項左の如し

一明治四十四年度面經費豫算編成の件

一面經費賦課徵收並に支出制定の件

木內長官の陞敍
朝鮮總督府農商工部長官從四位勳三等木內重四郞氏は正四位に陞敍したり

境警視の寄附
大和町三丁目警視境喜明氏は過般母堂逝去の際緣戚知己より寄せられたる香奠金二十圓を日の出小學校に同十圓を南山町幼稚園へ六日寄附せり

やまと新聞支局移轉
旭町一丁目に支局を置き其販賣を藤澤治三郞氏に委託し居りし同社は今回旭町二丁目京城通信社內に移轉し配達は大門前屋文堂及本町四丁目文林堂に依頼せりと

△朝鮮
二月號出づ其主張欄は釋尾旭邦氏の執筆に係かり卷頭掲ぐる客に答ふを始め幾多論へ來れる問題は總べて時事を痛論せるものにして一讀怡山の石とするに足る論說欄亦當代名士及專門家の寄稿多く其他研究富源名流叢談雜纂文藝の各欄に到るまで悉く朝鮮に於ける適切問題たらざるなし而して號を追ふ每に同誌の面目革まり滿紙活躍の跡あるを認むるは朝鮮文壇の爲めに大に多とする處にして旭邦氏の勇敢し甚大なるを知る（發行朝鮮雜誌社）

相場電報
（明治町西村支店着電）

▲大阪株式（三月限）（前場）

▲神戸電鐵 寄引 三八、二〇〇 出來不申

▲京坂電鐵 同 六四、〇一〇

▲[illegible] 同 六四、五〇〇

▲[illegible] 同 六九、三〇〇

▲[illegible] 同 六七、五〇〇

▲[illegible] 同 一〇〇、八〇〇

▲[illegible] 同 一〇八、六〇〇

▲[illegible] 同 一一八、八〇〇

▲[illegible] 同 一三〇、八〇〇

▲[illegible] 同 一三一、一〇〇

▲同 取引 一二九、八〇〇

（後場延着）

▲大阪期米 ▲四日前場二月止十四圓九十八錢▲三月止十五圓十四錢▲四月止二十八錢▲後場二月寄十四圓九十九錢▲止出來不申▲三月寄十五圓十五錢▲止二十七錢▲四月寄二十八錢▲止電文不明 ▲六日前場二月寄十五圓▲三月寄十八錢▲四月寄二十七錢

▲仁川米豆取引 ▲四日後場三月出來不申▲四月寄七圓八十一錢▲最高八十一錢▲最低七十五錢▲止七十五錢 ▲六日前場三月出來不申▲四月止七十六錢▲最高八十一錢▲最低七十六錢▲止七十七錢

少女其名は「絹」

みやび生

「こゝに一人の少女あり」小說は何時もこんな風に初まるもので、批評家は戀の文字にも飽き〳〵したとの御注文、然し年若い我等の身に取つては、事實が矢張りこんな風に初まるのだから、氣の毒と云はざるを得ない、僕は批評家の御注文に應ずべく神樣が僕及び人類を造つて呉れなかつたことを感謝する。

或る日の夜、僕は獨り机に倚掛つてぼんやり考へた居た、十一時を過ぎ隣室の客は臥てしまい、外は雨がしと〳〵降つて居る、親も兄弟も膝に居ない自分一人の身にはこんな晩は頗る厭心しないので僕は泣き出しさうな顔をしてじツと洋燈の傘を見つめて居た、と想像し給へ。

此時つと思ひ出したのはれ絹のことであるれ絹、れ絹、君は未だ其名にはれ知己でないだらう、君斗りでない、僕の朋友の中、何人も未だ此名が如何に僕の心に深い優しい豁かな響を傳へるかの消息を知らないのである「こゝに一人の小女あり其名を絹といふ」と僕は小說批評家への面當に今一度特筆大書する。

僕は此の小女を想ひ出すと共に「戀しい」「見たい」「逢ひたい」の情がむら〳〵とこみ上げて來た、君が何と云はうとも實際さうであつたら仕方がない此天地間僕を愛し、又僕が愛するものは唯だ此の小女ばかりといふ風な感情がして來た。

自分はれ絹が襖をひいて僕が獨りで入つてる浴室へソツと持て來て呉れたてどを思ひ其の優しい言葉を思ひ、其無邪氣な態度を思ひ、其笑顔を思ひ思はず机を打つて「この夏は内地へ歸る」と叫けんだ。

れ絹とは何人ぞ、君歎く勿れ、藝者でも女郎でもない、海老茶式部でも島田の令孃でもない、美人でもない、醜婦でもない、たゞの女である、湯ヶ原の温泉宿中西屋の女中である、田舍の百姓の娘である、小田原は大都會と心得て居る、田舍娘この娘を僕が知つたのは四十年の夏、君も御存知の如く病後兄と共に三週間此湯ヶ原に滯在して居た時である。

夜の明けるを待ち兼ねて僕は本町へ行つてかんざしリボン繪はがき其他娘が喜びさうな品を買ひ整へて郵便局のハイカラ君を煩はした、ソシテ僕は彼の此貧しき贈物を萬金にも代へ難き誇りもの〻如く滿腔の感謝を以て迎ふる汚れなき彼の女の笑を想像して會心の笑を禁ずる能はないのである、貧しい贈物を我が愛する田舍の娘に呈上する!!

活動寫眞

覆面子

六日 朝の南大門驛

夜はほの〴〵と明け渡りて、日既に三竿、霧に包まれた南大門は畫の如く浮き上る、

懷古の眼に崇禮の二字を仰ぐ、

停車場は人皆りつゝある、中津行の數多の行李は、永松ユウを筆頭として棚上に陳ぶ、三等室の一隅には、銀杏返あり、丸髷あり、島田あり、中折帽や印半纏、相倶じ相語る

男女の一團は、即ち之れ中津組であらう

と想像した、傍らには鹿兒島縣田中勘とか熊本縣天草郡島子村宮崎たつとかの行李がある一等室には、合資會社デウエツト商會田中孝太郎橫濱何々どの名刺も新らしきトランクが目に着く、

京城井門支店と記名した

カバンは若者の肩より下されて寒むさうに來る人を待つ、

午前九時、釜山行列車は、中津の男女を乘せて輕く驛を放れた彼等は暫し、

異域の風物に鄕黨を賑はすであらう、

同九時十分、新義州行列車は玻璃に朝日の光りを照り返して國境の終點を指して進んだ、

れゝ、思ひ出多き大江の流れは溶々として千秋盡きざることどであらう、あゝ今に及んで、白山黑水を夢む、感慨悃候の情、轉た禁ずべからざるものがある、

殘夢猶迷鴨綠江

唯た夫れ時か命か……

節分のれ化け(續)

京城の一天雲霧に蔽はれバラ〳〵と降り積む四日節分の年越日、四面裏白き其處此處、紅燈綠酒の巷より、アナ異しや三十六計の妖術を盡しドロン〳〵化けいでた花柳界の姐さん方が、奇々妙々なる、れ化振りの後れ書き、さてこそ時刻は晝飯前、各々や耶蘇教會の鐘の音は、諸行無常と余音嫋々、京城の空に鳴り渡らんとする一刹那、處は南山の裾、壽町に、巍ど聳突く一階建、銅葺の門構へ井門樓の奧まりたる藝者部屋より、合點ゆかざる大呼笑聲、コワと思ふ門口へ、ニユツと現はれたは、不思議や蓮の臺陀羅中將姫、黑地に牡丹狂獅子の縫模樣ある裲襠姿ぞ、何驚くそう當時流行妓の政子にて高褄取りあげつき從ふ二人の腰元は奴、妻子の化身なり、アラ可愛ーいれ小姓は咲けば色香は知る人ぞ知るまだ蕾なる叶子にて浮舟の蝶々、桐やの千代子などヨク化けたと云ふよりも、寧しろ扮裝の美事さはせめて舞臺で妾こそど、一幕丈けでも願はしき次第なり、カチンと舞臺一轉し、同樓仲居連の忠臣藏七段目の假裝こそ腹の譯も何處やらへ飛びそうで亦現れたは花月の妓樓、姉さん節のれ爺はスイシヤ髮の仲居姿と身を粉し、愛嬌タツプリの意氣な姿、猶名をさへ聞くだにチヤラ〳〵と喋舌りそうな辯護士の奧樣にでもマア耻しからぬ丸髷の仇姿はれ茶羅の裙にて、君江、金彌、小千代、勝次、外二十餘人が、今日一日は役人やら請負師、銀行、會社や商店の若旦那のホンに丸髷の奧樣振り良妻賢母の寄り集りマーナンテー間がいゝんでしよう擲翠より意氣揚々、高襟マカレツトて金縁眼鏡のれ孃樣、何處の御令孃かど、コワ〳〵見れば豈計らんや、い京とは、やん茶、繁春、れ染等の丸髷姿はそこらの車夫か、金筋きく〳〵の合夫人と、見違ふ樣で、仲居のかの娘姿は酒屋へ三里、豆腐屋へ一里といふ、山出しの土臭い田舍娘が浮世の塵に誘はれて、コンナ京城に飛び出して、きまり惡るそうな姿なり。

開進亭の小廣の丸髷姿は、意氣有り相な奧樣だがこれで仲居に客を橫取りにまでされるとは、人も見掛けに寄らぬもの商家の妻君ならは、必適で小萬、金王、米八等の奧樣振り意氣、生息氣さては辯護士の北の方でも、敢で肩巾狹くはあらじ、アラ正体現はれぬその内にイザサラバドロン〳〵

●仁川の大疑獄

▲某の自殺

仁川商業會議所會頭にして同民團議員加來榮太郎、桑野良太郎の兩人は仁川米豆取引所に關係して加來氏は取引所々長、桑野氏は同監査役なるが取引所内の問題に關して詐欺取財被告人として五日午前京城地方裁判所仁川支部豫審判事の令狀に依り拘引せられたり猶は右事件に關して某なるもの自殺したる由なり

●税務官吏と制服

京城府にては税務に從事し出張する税務官吏は必ず制服を着用し規定の證票を携帶せしめ又雇員を出張せしむる場合には制服を着用せざるも一定の證票を携帶せしむるを以て人民は必要に應じ證票の閱覽を求むる事を得る由にて人民は之れに注意せば安堵して税金納付等を爲し得べく京城府城内は徵税上の慣行なきも京城城外には往古より國税徵收ヶ所任に取扱はしめたる慣行あるを襲踏し各坊所在に公金を領收納入の事務を取扱はしむる由にて一々人民納税上の便宜を圖りたるものにて所任にも不日一定の證票を携帶せしむることゝなりたり人民は奸惡の徒の爲めに詐僞の手段に罹り不測の損害を被むらざる樣注意すべしと告示せり

化けたり〳〵

●龍山の捕鼠に就て

憲兵分隊長の語る所に依れば先般ペスト豫防の爲め捕鼠買上げの命令を一般に汎告し尙ほ積極的に捕鼠を奬勵し居るも日々の頭數實に僅少にして二三萬圓の豫備金は其用を爲さゝる有樣にして此際各戸各人に於て官憲の命を俟たず進んで捕鼠を提供せられたきものなりと記者もペストの恐るべき慘害を知れる在留民は勿論鮮人に至るまで續々自動的に捕鼠を勉めて此慘害を未發に防ぐべきを勸告するものなり

●豆買ひに來て女郎買

高知縣人當時咸鏡北道慶興郡雄基居留穀物商佐竹伊太郎(三九)福岡縣人當時同所居留雜貨商前田末次郎(四二)の二名は昨年十一月より大坂藤本合資會社及群山同出張所に到り朝鮮北韓方面に於ける大豆買入の有利を勸告し同會社より伊太郎は金一萬二千六百七十圓を預り内三百九十餘圓を遊興費に費消し末次郎は一万四千四百八十餘圓を預り内金二千餘圓を費消し橫領罪にて咸興地方裁判所清津支部に於て伊太郎は懲役六ヶ月に處せられ未決拘留日數百十日を刑期に算入末次郎は八ヶ月に處せられ未決拘留日數六十七日を算入せられ不服控訴せしに京城控訴院に於て控訴棄却されたり

●印刷局の不取締

龍山印刷局職工金潤根(二三)は明治四十年に度支部印刷局當時より職工として雇れ正直に勤務せし者にて精勤者の一人にて總督府所屬となりても解雇せられず勤務中家政の困難を來し一時の惡心を起し同職工吉澤さのなる者の机に置きありし韓國銀行發行一圓紙幣に數字記入なき分千枚の内より十二枚を竊取自宅に持ち歸り番號數字を入れ行使したる事其筋に檢擧檢事局に送られ兩角檢事の手にて起訴せらる

●京龍歌留多大會

來たる十一日正午(第二日曜)を期し通信局、鐵道局、印刷局(つらぬき會)の有志及び讀賣會は聯合して歌留多大會を京城永樂町派出所前濱崎氏宅に於て開催すと會費二十錢にて茶菓を呈し且つ飛入も又勝手なりと云ふ因に本社も催かる競技會に於て其の鬼才を發揮する機會なかりし通信局の松岡子出場活動すべしと云へば前田子及び宮女史等との手合せは頗る興味ある可し

●ペスト豫防講話會

南部警察署長今村警視古城民長京城醫士會京城各衛生組長發起にてペスト豫防講話會を八日午後一時歌舞伎座九日同時より壽座十日同時より京城府廳にて擧行す可しと

●各署の鼠買上數

各署捕鼠買上數北部署の四日三百八十七五日四百七十一西大門分署四日三百十五日三百二十七東大門分署四日百五十五日二百七十一南部署四日百十九五日百五水門洞分署四日六十六五日九十二龍山分署四日三十八五日六十二龍山憲兵分隊二十二匹なり

●明治町衛生組合活動

明治町衛生組合に於ては捕鼠器を多數購求し各戸に配付しペスト豫防に對する驅鼠奬勵す可しと

●竊盜 愛媛縣人當時初音町一丁目十二番戸居住韓國銀行小使八束鶴次郎(一九)は同行内に於て銀行員岸川國太郎所有の外套外一點同行員八木常次郎所有金側時計一個同行給仕岸松兼一所有の銀側時計一個を竊取したる事南部署村上佐原川副刑事に探知され取調の上檢事局に送らる

●暴行 御成町八十六番戸居住武田八十六(二一)は四日午後七時頃太平町二丁目三番戸飲食店下村きさ方に登樓一圓九十錢の酒肴料支拂はず且つ暴行を働き南部署に引致され詐欺取財並に傷害犯として取調中

●說諭 南山町四丁目森下指物屋職人愛媛縣人土井長太郎(三五)明治町二丁目京城組車夫荒木圓二(三七)は何處で飲んだか酩酊警官に暴言吐き南部署に引致され說諭

●橫領 長崎縣人當時住所不定三山松太郎(三七)山口縣人當時龍山本町二丁目原田仙太郎(三七)は橫領罪として何れも京城地方裁判所に於て懲役五ヶ月に處せらる

●賭博 靜岡縣人當時京城南坡町居住西村透(三二)は朝鮮人二人と共に蝎甫屋に於て賭博をなし北部署に檢擧され罰金十圓に處せらる

●危險落し物 銅峴分署管内小廣橋川に短刀の遺失あるを銅峴分署に拾得屆あるに付心當りの者は申出可しと

●演藝だより

●京城座 舞臺を生死の戰場と熱誠を以て毎夜の大入を呈し居る兄弟義團七日の藝題は愈々〳〵觀客諸君の所望に從ひ不如歸を花々敷く大車輪にて開演の由

●浪花館 引續き非常の好人氣なる大阪女義太夫越之助一座七日の語り物は御祝儀寶入船(入登)先代萩御殿(濱助)三勝半七酒屋の段(越濱)三十三間堂平太郎内(若大)御所櫻三段目(當士佐濱)小寨治兵衛紙屋の段目(當十歲越子)安達原三段目袖萩祭文(越之助)掛合として千持山うば八重きりしやべりの段三味線鶴澤太三、竹本三越なり

今日の運勢

二月七日舊正月九日九紫戊中先負破△一白●重要案件は障り多くして調り難き日他は進んで差閊なし旅行出帆に凶△二黑●快歡の日大凡官仕官就職委囑婚談協商協定に好良療病衛生注意すべし△三碧●總して萬事の日なるも勢に任せて業務上の安進を戒しむ爭訟は示談に利あり△四綠●祝典宴會屋入れ子孫の事に忌む他は平和の日進んで吉△五黃●武勁の日進んで吉慶事調色及外誘を戒しむ△六白●建築土木には吉他は控へ目の事殊に旅行及共同結社黨同に忌む△七赤●整理改革淘汰に吉新事旅行婚談談合に忌む盜失遺失防ぐべし△八白●相談委囑婚談祝典及子孫の事を謀るに吉外誘要求を斥くべし△九紫●分離精算決濟以外總て控へ目の事喜會保證連盟合同に忌む遺失盜失防ぐ

●天氣豫報(自六日午前六時至七日午後六時)(本町五丁目三一館判斷)

北の風晴れ